広報 九州
国民の森林・国有林
平成30年6月10日
（2018年）
No.1756
九州森林管理局
〒860-0081
熊本市西区京町本丁２－７
IP電話：050-3160-6600（代表）
http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/

国民の森林づくり推進功労者へ感謝状

「憶振興会」に林野庁長官感謝状を贈呈

林野庁長官より感謝状

国有林野をフィールドとした巡視・保全活動、教育活動等に功績のあった団体に対し、感謝の意を表して、宮崎市の「憶振興会」に林野庁長官感謝状が授与されました。

5月15日の九州森林管理局での伝達式には、宮崎市より児玉久夫憶振興会会長にご出席いただき、原田隆行九州森林管理局長より感謝状が贈呈されました。

憶振興会は、昭和23年6月に設立し、宮崎市東部の南北約12キロメートル、面積約８３０ヘクタールに広がる一ツ葉海岸林をフィールドとして、永年に亘り、松林の保全活動等に努められ、地元小中学校と連携してクロマツの植樹、毎年の下草刈り等の保育活動を実施されています。また、宮崎森林管理署から取締監視員の委嘱を受け、一ツ葉海岸の前浜国有林を中心に植物の盗採やゴミの不法投棄を取り締まる監視活動を定期的に行うとともに、地元小学校を対象に宮崎森林管理署と共同で森林教室を毎年開催し、子供達が森林や林業に親しむ活動を展開しています。

贈呈後、児玉会長からは、「永年の活動が認められ、会員共々、大変喜んでいます。これからも、地域の協力を得て松林を保全していきたい。」と応えていました。（担当＝総務課）

児玉会長（左から２人目）と局幹部

山地災害防止キャンペーン

林野庁では、平成30年5月20日から6月30日までの期間、「山地災害に備える」を合い言葉に、「山地災害防止キャンペーン」を実施しています。

九州森林管理局においては、この期間中、地域住民の皆様の防災意識の高揚に資することを目的として、関係機関や地域住民の皆様などのご理解・ご協力を得ながら、山地災害危険地区の周知やパトロールなどを実施しています。（担当＝治山課）

労働災害未然防止対策会議を開催

【熊本森林管理署】 5月10日、菊池市社会福祉協議会本所大研修室において、請負事業実行中の事業体等8社21名と署職員21名の参加のもと、安全会議を開催しました。

冒頭、熊本森林管理署長から、昨年度の九州森林管理局管内の災害発生について、特に伐倒作業での災害が発生件数の過半数を上回っていたこと、当署においては昨年度当初から災害が続けて発生した状況から「今年度当署からは1件の災害も出すこ

となく作業基準を遵守し安全作業の徹底、また、ダニ刺咬にも十分注意してほしい」との挨拶がありました。

安全会議の様子

会議では、菊池労働基準監督署監督官にも参加頂き、管内における労働災害の発生状況や「第13次労働災害防止計画」、「伐木等作業における安全対策のあり方に関する検討会」における規制の見直しについて説明を受けました。

最後に、参加事業体等から、「労働災害を防止するため特に気をつけていること」と題し自社の取り組みについて発表、意見交換を行い、今年度の無災害を誓って閉会しました。

由布市防災パトロールに参画

【大分森林管理署】 5月31日、由布市主催による「由布市防災パトロール」が、大分県、陸上自衛隊湯布院駐屯地、大分南警察署、由布市議会、由布市消防団など約50名が出席し開催されました。当署から治山グループの3名が出席しました。

水害、土砂崩れなどの危険性が高まる危険箇所のうち、由布市内の8箇所パトロールを行い、人家裏の森林の状況、避難経路・場所の確認、情報伝達の確認などを細かに確認しました。

由布岳地区においては、国有林の治山計画や過去に設置した治山ダム等について質問があり、総括治山技術官から治山事業の効果等について説明しました。

また、当日は由布鶴見岳国有林内において、大分森林管理署発注の航空実播工を実行中であったため、崩壊した斜面の早期緑化と安定へ向けた取組を説明し、参加者はヘリコプターによる緑化（防災）事業を興味深く観察をされていました。

パトロール前の点検事項の確認

現地調査のあと、湯布院コミュニティーセンターに場所を移し、意見交換・検討会を実施し、その中で、由布市消防団長から「非常時においては住民を守るという強い決意を持って行動する」と発言があり、今後の防災に生かしていくことになりました。

森林整備事業箇所の視察を受入れ

【熊本南部森林管理署】 5月10日、森づくりの担い手の確保と事業体の育成を図るために、一般社団法人長崎県林業協会からの依頼により、長崎県内の森林組合作業班員等を対象にした森林整備事業箇所の視察を受け入れました。

長崎県林業協会員の現地視察

西浦国有林15林班の活用型現地において、工藤孝署長のあいさつ後、渡辺浩司総括森林整備官から事業地の概要等の説明を行いました。

続いて、事業実行中の（有）永山林業の協力を得、列状間伐や森林作業道の作設手順等について、実行箇所を視察しながら意見交換を行いました。

その後、場所を平成29年度誘導伐箇所に移し、シカ被害対策ネットを設置後コンテナ苗を植栽した一貫作業地を視察し、主伐・再造林の拡大を見据えた低コスト造林への課題等について意見交換を行い、長崎県では「まだシカの被害はあまりないが、ネットの高さは2mで大丈夫か。」「業者も主伐はやりたがるが、造林は作業環境が厳しいので、あまりやりたがらない。」などの意見が出ました。

当署としては、今後も民有林への技術的情報の提供を積極的に行い、林業の成長産業化への一翼を担っていくこととしています。

モーターカー講習会を開催

【屋久島森林管理署】 当署では、昨年8月に熊毛地区消防組合及び屋久島警察署の三者で、山岳遭難事故等が発生した際に各機関が連携・協力して円滑かつ効率的な救助活動を行うことを目的に、「山岳遭難事故発生時の救助捜索活動に関する協定」を締結し、当署が対応できない場合でも当署のモーターカーを警察・消防に貸し出して迅速な救助を行えるようにしています。本年度もゴールデンウィーク期間中に事故が発生し、傷病者搬送のため緊急に警察・消防による運行で二回出動し迅速な対応が出来ており、関係機関から感謝されました。

説明を受ける救助隊方々

このような中、本年度も協定に基づき熊毛地区消防組合の屋久島北・南分遣所の職員4人と4月異動により新たに転入した署職員4人を対象にして、モーターカーの運転に係る講習会を開催しました。

講習会は、5月11日に木村宏総括事務管理官を講師として学科講習と試験を行うとともに、14日以降に岩本清文次長、川野等森林整備官を講師として実際

の森林軌道でモーターカーの実技講習を開催し認定考査を行うとともに、後日受講者全員に森林軌道運転認定証の交付を行いました。当署としては、引き続き山岳遭難事故発生時に関係機関と連携・協力して、地域貢献できるように取り組む考えです。

日本林業遺産の三ッ岩オビスギ保護林までの市道を補修

【宮崎南部森林管理署】平成30年5月10日に熊本林業土木協会宮崎支部の日南市・串間市の3社（（株）永野建設、（有）高橋建設、大平開発（株））がボランティアで三ッ岩オビスギ保護林へ通じる市道約1キロメートルの補修を行いました。

陥没した路面の補修作業の様子

この三ッ岩オビスギ保護林は、平成27年4月に「飫肥林業を代表する弁甲材生産の歴史」として日本林業遺産に認定されており、川越本店所有林とともに飫肥林業を代表する疎植林の景観を維持している森林として認定されています。

今回、側溝や横断溝の清掃と路面が劣化している箇所や陥没した箇所の補修を行ってもらいました。

当日は、同協会から20名と当署からも6名参加して、見学者が保護林まで快適に通行して、少しでも多くの方に来て頂くことを願って参加者一同いい汗を流しました。

長野林業大学校生が来署

【屋久島森林管理署】4月17日、入学して間もない長野県林業大学校1学年の校外研修の一環として学生20名と職員2名が、屋久島の森林・林業を学ぶため昨年度に引き続いて屋久島森林管理署を訪れました。

当日はあいにくの雨天でしたが、当署安房貯木土場において一口竜也森林技術指導官から屋久島の森林・林業の概要について説明を行い、続いて廣田俊之森林整備官からヤクスギの歴史と現状について説明しました。

学生たちは、土場に保管されている樹齢千年を超えるようなヤクスギ土埋木の存在感ある大きさや目が詰まった美しい年輪を見て驚いた様子でした。また、土埋木を生産するための採算性や材質と販売価格との関係性について、さらには近年のヤクシカの生息数の減少理由についてなど、さすがは林業を志している学生らしい質問が出され関心の高さを感じさせられました。

ここ数年、長野県林業大学校からの研修受入れを実施していますが、林相や森林の取扱の違う屋久島の森林・林業を学んで頂くことは重要なことであり、これからの日本の森林・林業を担う人材になってもらいたいと大いに期待しています。当署では、本年度も外部からの研修等の受け入れを積極的に行い、人材育成の一助となるよう努めていく考えです。

１５０人が参加した勉強会の様子

長野県林業大学校学生が桜島治山事業を学ぶ

【鹿児島森林管理署】長野県林業大学校からの依頼を受けて、4月19日に桜島地区民有林直轄治山事業の現場において研修会を開きました。

桜島の治山現場にて説明の様子

当日は、1年生20名を対象に湯ノ平展望所において、杉野隆二次長から当署の概要、古庄誠司総括治山技術官から桜島治山の概要、江口晃主任治山技術官から治山事業の主な工法について、それぞれ資料を使って説明しました。

続いて、引の平上流の円形セルダム施工箇所に移動し、江島昭則治山技術官から、工法の特長であるコスト縮減、工期の短縮、現地土砂の有効利用などについてわかりやすく説明しました。学生からは、円形セルダム工事実行にあたり苦労したこと、治山工事実行の注意点、航空実播工の工法など多くの質問を受けました。

公務員志望の学生がいたことから、今回の研修により治山事業など多岐にわたる国有林野の業務に関心をもっていただき、多くの学生が当職場を希望されることをお願いし研修を終了しました。

森林調査等の基礎的技術を学ぶ

【大分森林管理署】4月25日、竹田森林事務所において、本年度新規採用者を含む若い職員4名を対象にOJT（職場内研修）の一環として安全作業の手順及び図面の見方等を行いました。

はじめに、竹田森林事務所の園田敏明行政専門員、工藤昭二行政専門員から、刃物の基本的な取扱いや構造、基本動作及び刃物の研ぎ方について、安全で効率的な方法について伝授しました。

次に、森林施業や登山道パトロールを行ううえで基本となる図面の見方について、現在活用している基本図においては、磁北と真北で磁針偏差があること、

刃物の研ぎ方指導の様子

置、「つるを残す意味」などについて説明のあと実際に伐倒を行いました。また、造林木に巻き付いた「つる切り」の方法等について、手や足の位置、腰鉈を振り下ろす方向等の基本動作、基本作業についても認識を深めました。

今後も、安全作業の重要性、森林調査の基礎的な技術については引き続き理解を深める環境づくりに取り組むこととしています。

等高線の向きにより尾根や谷を把握することにより無理のない現地踏査の方法を説明しました。また、国有林野を管理するうえで重要となる境界票の種類等について質問形式で実施しました。

実践演習では、山本純也地域統括森林官が加わり伐倒作業について「受口」、「追口」の位

小径木の伐倒指導の様子

安房小学校で森林教室を開催

【屋久島森林管理署】当署においては、5月18日に屋久島町立安房小学校の3年生と4年生の70人に対して当署安房貯木土場において森林教室を開催しました。この森林教室は、安房小学校が地域・郷土の自然や文化への理解を目的に一日遠足のカリキュラムの一環として、当署に要請があったものです。

当日は好天にも恵まれ、当署安房貯木土場において山邊隆広総括森林整備官の司会進行により、吉村浩一主任森林整備官から森林の働きや木材の利用等について説明を行い、続いて廣田俊之森林整備官からヤクスギの歴史と現状について説明しました。

その後、児童達には6班に分かれてもらい、実際にヤクスギ土理木に触れたり臭いを嗅いでもらうとともに、人工林材の屋久島地杉の年輪当てクイズやフェニックスの樹高当てクイズにチャレンジしてもらいました。

児童達は、自分たちの住んでいる屋久島で初めて見るヤクスギ土理木の大きさや美しい年輪に驚いた様子で、「日頃経験できないすばらしい勉強をさせてもらった」、「将来、森林や林業に関係する仕事をしてみたい」などの感想が聞かれ、職員も児童達の感想を聞いてとても嬉しく頼もしさを感じた森林教室となりました。当署では、本年度も地元の学校への森林教室を積極的に行い、次世代を担う地元の子供達に屋久島の自然と林業の大切さを伝えていく考えです。

児童を前に森林教室の様子

林業遺産現地検討会を開催

【屋久島森林管理署】当署の国有林野内にある森林軌道や事業所、宿舎、小中学校跡さらに屋久島の林業を記録した古写真等については、昨年5月に日本森林学会より林業遺産「屋久島の林業集落跡及び森林軌道跡」として認定されています。

このような中、5月22日に本年度の現地調査等を開始するに当たり、署関係者18人が参加して林業遺産に関する情報共有や今後の対応方針等を検討するため、国立歴史民俗博物館の柴崎茂光准教授と鹿児島大学の奥山洋一郎助教の指導を受けて現地検討会を開催しました。

検討会は栗生森林事務所部内の黒味国有林内で開催し、川畑充郎署長からこれまでの経過や現在検討中の林業遺産の保全管理方針案等について、草野誠森林官より現地概況について、柴崎准教授から林業遺産全般についての説明を受けるとともに、森林軌道跡の踏査を行いました。

続いて、遺産区域内からこれまで収集された林業道具や生活物品などが仮収蔵されている旧小瀬田中学校に場所を移動して、柴崎准教授から収蔵されている林業遺産の内容、リスト作成などの保存方法等について説明を受け、参加者全員で林業遺産に関する情報共有を図るとともに、本年度の調査方針等の確認を行うことが出来ました。

当署としては、今後とも関係機関や研究者と連携しながら認定された林業遺産を適切に保全して、後生にその価値が受け継がれていくように努めていく考えです。

現地において検討会の様子

着実な再造林へ「南那珂連携事業体協議会」発足

【宮崎南部森林管理署】近年、南那珂地域の民有林の伐採面積は5百ヘクタールを超えています。しかしながら再造林率は64%に留まっているところであり、この再造林率を高めるのが南那珂地域の大きな課題でもありま

す。

このような中、地域の事業体6社（福岡木材（有）、日北木材（有）、（有）金川木材、飫肥造林（有）、南那珂森林組合、（株）石波林業）が結集し、南那珂地区における山村地域の将来に向けた持続的発展をめざし、「南那珂連携事業体協議会」を平成29年10月に立ち上げ、伐採から一貫して再造林を行う取り組みを協議してきました。

平成30年度には5月14日に第一回目の会合を開催し、確実な再造林に向けた森林所有者への負担軽減や担い手不足の解消と災害対策としての機械地拵への推進、誤伐・盗伐対策ならびに、再造林の低コスト化に係る普及啓発などの具体的方策の確認を行いました。

この6社は宮崎南部森林管理署の生産・造林の請負やレク森等で活躍していただいている事業体の皆さんです。これらの取り組みが南那珂地域全体に広がることを願って当署としてもできる限りの応援をしていくこととしています。

連携事業体会議の様子

縄文杉周辺のマナーを指導実施

【屋久島森林管理署・屋久島森林生態系保全センター】当署及び保全センターは、4月29日と5月5日に縄文杉周辺においてゴールデンウィーク中の登山者へのマナー指導を実施しました。

このマナー指導は、林野庁、環境省、鹿児島県、屋久島町、屋久島観光協会、屋久島環境文化財団等で構成する屋久島山岳部保全利用協議会が毎年度実施しており、縄文杉デッキ周辺における監視・誘導などのマナー指導や入林者の人数確認を行っているものです。

本年度は、4月28日から5月5日までの8日間を関係機関が交代で実施し、当署及び保全センターが担当した4月29日は574人、5月5日は480人の来訪者がありましたが、GW期間中を通じて最も混雑した日は5月4日であり、一日で755人の来訪者がありました。

当署及び保全センターでは、引き続き関係機関と連絡調整しながら、縄文杉を含む世界自然遺産区域内の保全・管理を積極的に実施していく考えです。

縄文杉デッキにて入林者の様子

産官学で育苗検討会を開催

【屋久島森林管理署】4月25日～26日の2日間、屋久島森林生態系保全センター主催による屋久島地杉苗（コンテナ苗）育苗に関する現地検討会をハサ嶽国有林69林班と保全センター内などで開催しました。この検討会は、屋久島地杉の挿し木によるコンテナ苗生産技術の向上を図ることを目的に、林木育種センター九州育種場の栗田学育種研究室長、大塚次郎育種技術専門役と九州大学の渡辺敦史准教授の3人を講師に、当署・保全センター関係者、鹿児島県、屋久島町、昨年10月に設立された屋久島地杉苗木生産協議会の民有林関係者の27人が参加して開催されました。

挿し穂づくりの様子

25日には、鹿児島県が管理する採種林において現況確認と今後の取扱等について指導を受けるとともに、苗木生産協議会会員の苗畑予定地において苗畑造成の留意点等について指導を受けました。その後ハサ嶽国有林に移動して、保全センターの奥村克生態系管理指導官より昨年11月から開始した挿し木コンテナ苗育苗試験の現在までの状況について、大塚育種技術専門役から採穂の留意点や採穂台木の仕立て方と管理についての説明を受けたのち、9班に分かれて実際に採穂の実習を行いました。

また、26日には県内テレビ放送の取材を受ける中、保全センター内において参加者全員でコンテナ苗の培地作成、挿し木、挿し穂づくりの実技等を行い、最後に参加者で意見交換を行いました。

挿し穂実技の様子

職員を含めた参加者からは、初めて挿し木のコンテナ苗の育苗作業を経験した方が多く、「非常に勉強になった」、「これからの育苗に参考になった」等の感想が聞かれ、実践的かつ有意義な現地検討会となりました。

当署及び保全センターとしては、今後とも関係機関と連携して屋久島における育苗技術の向上のための各種支援を行っていく考えです。

森林セラピー協議会及びレク森管理運営協議会開催

【宮崎南部森林管理署】平成30年5月9日に、日南市北郷町の林業研究グループ、グリーン・ツーリズム代表ら森林セラピー関係者、日南市及び南那珂農林振興局の担当者が集まり両協議会が開催され一年間の活動計画が承認されました。

関係団体による協議会の様子

セラピー協議会の席上、当署から猪八重の滝風景林が「日本美しの森 お薦め国有林」に選定され、遊歩道の整備、多言語プレートの設置を行ったことや今年度は、渓谷の入場者数を調べるカウンターの導入を計画していることなど官民一体となって猪八重の滝の活性化に取り組んでいくことを紹介しました。

また、その後のレク森協議会では、九州森林管理局計画課岩下治喜経営計画官から猪八重の照葉樹林約450ヘクタールを保護林に指定する計画があることやレク森の一部を保護林へ変更する必要があること等の説明がありました。

協議会の会員からは、猪八重の貴重な森林を守りながら観光の活性化と両立を図りたいという意見が出されました。

保護林の設定については、今後「保護林管理委員会」の意見を踏まえて検討されることとなります。

当署では、今後も猪八重の保護と活用を両立させ、地域と一体となって活動を継続し魅力ある国有林を目指していきます。

ふるさと産業祭りに参加

【屋久島森林管理署】4月22日、屋久島町主催の恒例イベント「第9回屋久島町ふるさと産業祭り」が同町尾之間の町民すこやかふれあいセンターで開催され、当署からも一口竜也森林技術指導官、井誠喜春牧森林官、池田一穂技官及び山口聖技官が参加しました。

このイベントは、町内の基幹産業である農林水産業を広くPRしようと毎年開催されており、林業関係者もこれまで屋久島森林組合などの団体・企業が個別に参加していましたが、今回初めて当署も構成員である屋久島林業推進検討会としてブースを出展し、当署は竹とんぼづくりコーナーを担当しました。

竹とんぼづくりの様子

当日は天候にも恵まれ、大勢の家族連れや観光客で賑わい、当署の竹とんぼづくりのコーナーも次々と子ども達が訪れて、職員の指導を受けながら楽しそうに作った竹とんぼを飛ばしていました。また、屋久島林業推進検討会のブースでは、県屋久島事務所が屋久島地杉板のお絵描き、ロケットラワン作成や屋久島地杉加工センターが屋久島地杉製品の展示PR、地元林業事業体が屋久島地杉の割り箸PRなどを行いました。

今回のブース出展に当たっては、「チーム屋久島」オリジナルTシャツを作成し、参加者全員で着用し、屋久島の林業関係者で心を一つにした取組となり、町民へアピールすることが出来ました。

桜島地区民有林直轄治山事業の地元説明会

【鹿児島森林管理署】平成30年度桜島地区民有林直轄治山事業の地元説明会を地元自治公民館長並びに関係行政機関総勢29名参加の下、鹿児島市桜島支所会議室及び治山事業施工地において開催しました。

まずはじめに、当署の山口輝文署長より、これまでの桜島民有林直轄治山事業の推進への地元及び関係機関の協力に対しお礼の言葉や、今後も地元住民の生命、財産を守る為、事業を推進する旨の挨拶が有り、引続き、古庄誠司総括治山技術官より事業の進捗状況、平成30年度の事業計画についてパワーポイントを使用して説明を行いました。

その後、引の平上流、西道川、松浦川第2支流、松浦川と現地を視察しましたが、その中で「もしこの桜島で治山工事を行っていなければどうなっていたでしょうか」、「治山事業のおかげで土石流の発生がない」などの意見が出され、昨年度の九州北部豪雨災害や熊本地震など近年多発する災害を受け、地元住民の方々の災害に対する不安や治山事業への期待を感じる一日となりました。今後も、このような機会を捉え、積極的に治山事業のPRに努めたいと思います。

現地において地元説明会の様子

登山シーズン（傾山・黒岳）が本格的に始まる

【大分森林管理署】４月29日、「第62回 傾山山開き」が大分県佐伯市（宇目）と宮崎県日之影町にまたがる九折越広場において、傾山山開き実行委員会主催（事務局＝佐伯市）により、関係者約１００名が出席して開催され、当署からは坂本和隆大分森林管理署長、山本純也地域統括森林官、井上和也主任森林整備官が出席しました。

主催者を代表して佐伯市の阿部邦和副市長から、「昨年６月に、祖母・傾・大崩ユネスコエコパークに登録されて、はじめてとなる山開きです。この大自然を満喫していただきたい」と歓迎の挨拶がありました。最高齢者男女（67歳及び65歳）、最年少男女（２歳及び７歳）への記念品贈呈。

山開きに訪れた登山者と主催者

坂本署長から「宮崎、大分両県に架かる地で山開きが開催されることは意義深く、両県及び関係する日之影町、佐伯市、豊後大野市の発展と、登山する方々の安全等を願います」との挨拶、最後に豊後大野市の川野文敏市長の万歳三唱等の式典後、大勢の参加者が頂上を目指していきました。

登山道を進むと満開となったアケボノツツジが登山客を迎えてくれる等、天候にも恵まれ、雄大な自然を満喫していました。

また、同日、第39回黒岳山開きが庄内町観光協会主催により、由布市庄内町阿蘇野の男池駐車場において、登山の安全を祈願する神事が関係者約30名が出席して開催され、当署から濱田辰広次長が出席しました。

黒岳（標高1587メートル）は九重山系の一つで、ミズメ等の天然林は生物群集保護林に指定されており、学術的にも貴重な森林として自然環境の保全、形成、学術研究等に重要な役割を果たしています。

当日は、一般の登山者約２００名が訪れ、地元の観光協会が用意した豚汁等が振る舞われました。そのあと、元気にシャクナゲが群生する頂上を目指しました。

登山道からのアケボノツツジ

「由布岳山開き祭」を開催

【大分森林管理署】５月13日、大分県別府市（由布岳正面登山口）において、第38回由布岳山開き祭が由布岳観光協議会主催により、別府市、由布市、大分県、関係団体などの代表者や登山者が参加して開催され、当署から坂本和隆大分森林管理署長、井上和也主任森林整備官、田吹涼太技官、木下昂大技官が出席しました。

主催者を代表して、由布岳観光協議会長（代理）猪又真介別府市副市長と同協議会副会長の相馬尊重由布市長から挨拶がありました。その中で「由布岳の山頂から見る大パノラマを満喫してください。その後は、両市が誇る温泉で疲れを癒やしてください」等述べられました。

その後、今年の参加者最高齢者（別府市の89歳の男性）、最年少者（５歳の女児）も参加して関係者とともにテープカットが行われました。

坂本署長から、登山者の安全を祈願して万歳三唱がありました。

会場では、先着１２００名に記念の帽子の配布や豚汁が振る舞われました。参加者たちは新緑の草原から林間へと進んで由布岳の山頂を目指して行きました。

関係方々による山開きテープカットの様子

屋久杉土埋木の公売開催

【屋久島森林管理署】6月5日、当署安房貯木土場において屋久杉土埋木の公売を開催し、屋久杉土埋木約49立方メートルのほかヒノキ約1立方メートルとツガ約4立方メートルの合計約54立方メートルを出品しました。今回の公売に向けては、検知、椪えのレイアウト、価格評定、会場設営など全てを職員実行で行うとともに、5月23日には事前に署員全員で公売当日の役割分担を決めて詳細な打合せを行いました。

公売に参加する応札者

公売当日は、あいにくの雨天になりましたが屋久島内外から21者の買方が参加する中、川畑充郎署長の開会挨拶のあと公売が開始され、当署職員の競り子の威勢の良い掛け声とともに、次から次へと競り落とされていきました。その結果、屋久杉土埋木の最高値は立方メートル当たり約100万円の値段がつくとともに、平均入札単価は立方メートル当たり約32万円で取引きされました。また、公売の状況は、テレビ・新聞のマスコミ取材を受けました。

屋久杉土埋木が貴重で限りある資源であるため、公売での販売は今回で最後となりますが、当署としては少しでも細く長く生産・販売が出来るように取り組むとともに、引き続き屋久杉の人工林の需要拡大にも関係機関と連携しながら取り組み収入確保に努めていく考えです。

「くじゅう山開き」夏山シーズンがスタート

【大分森林管理署】「満開のミヤマキリシマ くじゅう連山をピンク色に染める」

6月3日、大分県竹田市に位置する大船山（1786m）山頂において、「第66回くじゅう山開き」がくじゅう観光連盟（会長：日野康志九重町長）主催により、九重町、竹田市、竹田警察署、玖珠警察署、大分県など関係者と大勢の登山者も参加して開催されました。

当署からは、坂本和隆大分森

モニターの声

次世代に自然環境を残したい

岡　宏子

（長崎県在住）

人口の首都集中による地方での山林問題。修復するにはかなりの時間を要します。少子高齢化と同様に、早急に取り組む重要な問題だという危機感を持ちました。親として、子や孫を含む次世代が安心して暮らせるような環境の修復。もしくは少しでも現状を維持したいと思い、今回応募させていただきました。

以前おこなっていた環境活動は、参加者の多くが主婦層だったので農林水産業を各分野別で取り組もうとした際、日頃から利用する野菜や魚介類などの「農業・漁業」は比較的に取り掛かりやすかったのですが「林業」は難しく、当時は営利目的の伐採が環境破壊の問題となっていたので「割り箸は環境に良いのか?」ということに端を発し、「マイ箸持参運動」に取り組みました。勉強会で、日本の林野をはじめ森と海の繋がり等について学んだことが、林業について考えるきっかけとなりました。我が国の林業の深刻な状況を知り、驚きと危機感を覚えました。

最近ではニュース等で、豪雨災害や里山問題など頻繁に報道されるようになりました。そんな折、今回の公募を知り、林業についてきちんと学びたいという思いが強くなっていきました。

その後、管理局から届けていただいた数冊のパンフレットは、私の想像していた堅苦しいものではなく、画像や様々なグラフ、また地図などがふんだんに掲載されており、どれをとっても工夫が施された温かみのあるわかりやすいものでした。読み進めていくうちに、九州森林管理局の取り組みへの理解を一掃深めることができ、林業についてもっと学びたいという気持ちが沸いてきました。

また、先日全国版の番組で「林業」について報道されていました。内容は宮崎県で盗伐が起こっているという30分ほどの番組は、目を見張るものでした。問題の深刻さに更なる不安と危機感を抱きましたが、その反面、この番組のおかげで林業の現状を多くの人が知り考えるきっかけと成り得るので、林業が取り上げられたことを嬉しく思いました。

今後、私に何ができるかわかりませんが、知り得た情報を自分の中だけに留めることなく、まずは身近な家族へ。そして、周りの知人へと伝えていく発信役として、モニターの役割を果たしていきたいと思います。

林管理署長、植薄和彦森林技術指導官、中嶋紀光地域林政調整官、井上和也主任森林整備官、上村徳光首席森林官、庄司拓平技官、田吹涼太技官の7名（大分西部署から10名）が出席しました。

早朝から多くの登山者が安全祈願の時刻に合わせて山頂を目指していました。10時30分から山頂で神事が執り行われ、今シーズンの安全祈願が行われました。

満開のミヤマキリシマ

その後、主催者を代表してくじゅう観光連盟会長（日野九重町長）から「くじゅうのすばらしい自然を、皆さんとともに大切に守りたい」と挨拶がありました。

坂本署長から、「自分の安全は自ら確保し登山を楽しんでいただくとともに、自然環境を大切にし、それを支える地域の発展を祈念します」と祝辞を述べました。

登山道で出会った中には、一生懸命に登ってきた3歳の男児連れの親子や満開のミヤマキリシマをバックに仲間と記念撮影する光景が印象的でした。

大船山山頂にて神事の様子

かつお一本釣りのルーツを辿るツアーで三ッ岩オビスギ保護林を案内

【宮崎南部森林管理署】平成30年6月3日（日）に、日南市かつお一本釣り漁業遺産認定推進協議会主催の観光ツアーが開催されました。その中に三ッ岩オビスギ保護林の見学を組みこんでいただき、当日、宮崎市、日南市の市民の皆さん38名が来られました。この企画は、近海かつお日本一の漁獲量を誇る日南市の「かつお一本釣り漁業」を後生に残すために、日本農業遺産認定を目指しており、住民の皆さんに歴史や文化的価値の理解を深めていただこうと企画されたものです。

参加者は、かつお一本釣りのツアーになぜ森林が関係しているのかと不思議がっていましたが、きれいな水と空気を森林が育むことで豊かな日南市の海があることを勉強して納得されたようです。

参加者は、「キョロロロ・・・」と鳴くアカショウビンの声を聞いたり、ドクダミやテンナンショウの花や実を観察し、木材チップを敷き詰めたふわふわの林内歩道を散策し、豊かな自然を実感していました。

当署では、今後とも市と連携しながら、保護林やレクリエーションの森を活用して自然の大切さを広めていく取組を進めていく考えです。

三ッ岩オビスギ保護林内の見学者

新規採用研修及び基礎全般研修の前期日程を終える

新規採用の皆さんと局幹部

平成30年5月7日から8日の2日間において、平成30年度一般職員採用者14名（大卒6名、高卒8名）を対象に新規採用研修を実施しました。

原田隆行局長訓示をはじめとして林視次長、両角実総務企画部長からの講話、勝沼太志企画調整課長からは、森林林業再生の取組について分かりやすく説明がありました。また、森林管理局の各課の仕事や雰囲気、署等との関係を知ってもらうため、3グループに分かれて各課を取材し取りまとめて、グループごとに発表を行いました。

引き続き5月8日から11日の4日間において、基礎全般研修（前期）も実施し、総務・経理・パソコンの基本・森林調査簿等の見方の講義を受けました。

短い期間の研修でしたが、各講義等に対して研修生全員が真剣に取り組んでいた姿を見て、将来の林野行政を背負って行ける皆さんであると心強く感じ、無事閉講することができました。

最後に原田局長並びに幹部の皆様、そしてこの研修にご協力頂いた講師の皆様方にお礼と感謝を申し上げます。

（担当＝総務課）

都会の中の憩いの森 監物台樹木園の多様な植物 ⑫⑦ ナンキンハゼ（トウダイクサ科）

冬、ナンキンハゼの白い種衣の種子が、幹全体を覆い、遠目に白い花が咲いたように見えることから、「あの花の名前は何ですか」とよく聞かれます。

果実は3室からなり、偏球形で熟すと裂けて開き3個の種子を出しますが落下しません、種子は白色蝋質の種衣が全体を包むので白く見えます。この蝋を集めて蝋燭（ろうそく）とします。蝋を利用することから、名前は支那（中国）産のハゼノキの意味です。

台湾と中国の原産で、江戸時代に渡来した落葉高木です。紅葉は赤色に紫と黄色が加わったような、あざやかな色のため、街路樹や公園に植えられています。

葉は細長い柄を持ち互生し、黄緑色で菱状卵形、先端は急に尾状となります。全縁で表裏共に毛はなく、葉柄と葉身の間の上面に2個の腺体があります。

夏に若い枝の先に総状花序を直立して、芳香のある、黄色の小さな花を多数咲かせ、上部に多数の雄花がつき、下部に少数の雌花がつきます。

枝や葉を傷つけると白い乳液がでます。

みどりの散歩路

梅雨に入れば洗濯物が乾かない、カビが生える、臭いなど憂鬱になるものです▼単身、独身時代には洗濯槽に洗濯物をため込み一度に洗濯、汚れは落ちたが臭いが取れないなど皆さんも経験したことでは▼ここで一考、洗濯する時間もなく二日以上おく方へ、臭い元であるカビの温床を防ぐため洗濯物を洗濯槽にため込まず風通しのよいところに干し、それから洗濯すれば臭いは減るとのこと▼熱中症対策や明るい職場づくり、また、森林の保育のため「風通しをよくする」という言葉は何事にも相通じるものがあると思います▼九州の梅雨明けは例年7月中旬頃です「風通し」を意識してうっとしい梅雨を乗り切りたいものです。

（広）

訂正して、おわびします

▼広報九州（No1754）「退職 長い間ご苦労様でした」の記事で村上敏彦様のお名前が「村山敏彦」様の誤りでした。

▼広報九州（No1755）「治山林道コンクール表彰式」の記事で宮島貴文様は「現在、佐賀署」勤務です。